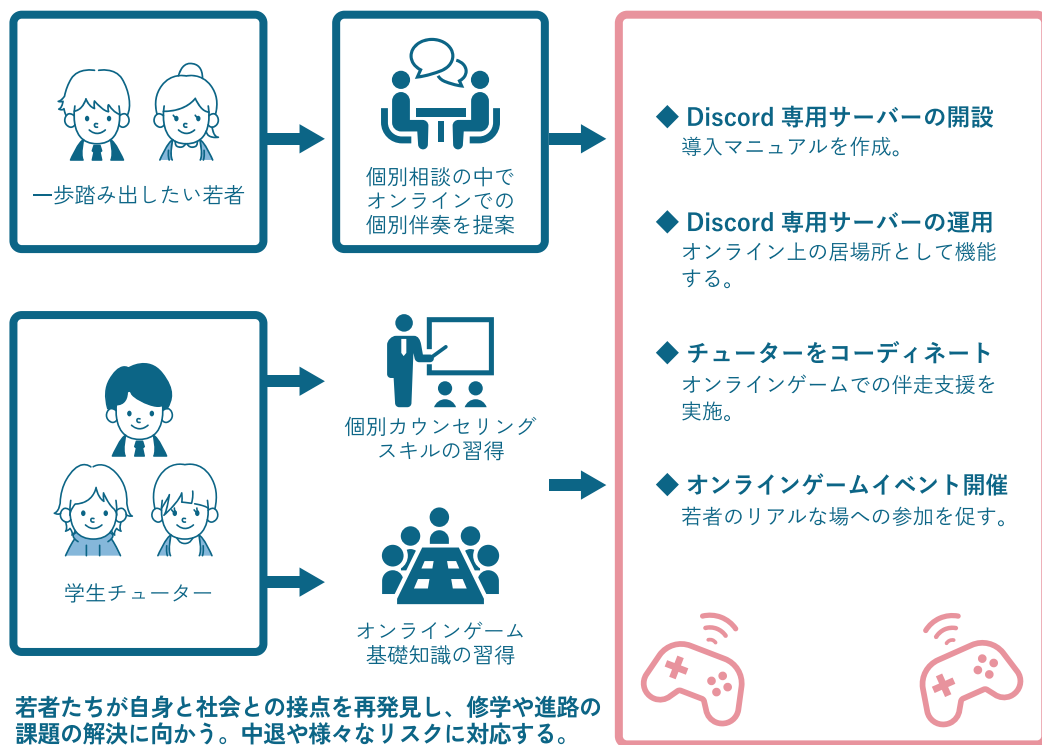


contents

## 03

## コンポーネント① 「つながる」



対象者との最初の接点として、地域の支援機関とのネットワークの中で、対象者を探るとともに、法人 SNS 上での募集や、インターネット広告にも取り組み、潜在的にコロナ禍で社会との接点を失っている若者との接点を探りました。

並行して大学とのネットワークの中で、若者の伴走に興味のある大学生との接点を作ったうえで、カウンセリング基礎講座や、オンラインゲーム基礎講座などの研修に参加いただき、若者に向き合う基礎知識を学んでいただきました。

「支援する、される」の関係ではなく、同じ悩みを持つ若者同士が、インターネットという同じ場に身を置くことで、相互に支えあえる仕組みを作ることを目指し、活動を進めました。



## アウトリーチについて

アウトリーチは「手を伸ばすこと」を意味しています。待っているのではなく、こちらから出向き支援を届ける行動です。ただ出向いていくことを指すだけでなく、「支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、行政や支援機関などが積極的に働きかけて情報・支援を届けるプロセス」(OVA, 「声なきプロジェクト」ホームページ,2022) がアウトリーチの意図するところになります。対象となる方は、様々な障壁により支援機関とつながることが難しい方です。特に石巻地域のような地方においては、café やお店等も含めた外出先・居場所になり得る場が少ないことや移動のための手段が限られるなど、社会資源が少ないことが障壁となります。このような社会資源の少ない地方においては、アウトリーチは必要な方につながるためにも非常に有効な手段です。

実際のアウトリーチでは、自宅や学校など対象者（本人またはその家族）が希望する場所に出向いて面談や必要なサポート等を行っています。毎月お会いして顔を覚えてもらうこと、家族以外のサポーターとして認識していただくこともしています。関わる人を増やすということも、対象者が今後生きていく上では欠かせない要素になると考えます。

支援の手が届き難い方へ支援を届けつなげるためにも、アウトリーチは引き続き継続していきます。



## オンライン上での若者との接点づくり

今回の事業では、オンラインゲームやeスポーツを活用することで、通所や電話での支援につながりにくい若者と、オンライン上での接点を作ることに取り組みました。

対象者像を15歳から39歳の「コロナ禍で所属を失い、オンライン上に居場所を見出す若者」としたうえで、東北地方中心に大学生に呼びかけ、若者とオンラインで向き合う有償ボランティアとして位置づけました。

